

- 平成27年1月に定めた「宇宙基本計画」に基づき、「宇宙安全保障の確保」、「民生分野における宇宙利用推進」、「産業・科学技術基盤の維持・強化」を着実に推進。
- 「工程表」の改訂を通じて、政策の一層の具体化・加速を図る。

工程表に基づく着実な進展

宇宙安全保障の確保

- 6月、情報収集衛星レーダ6号機の打上げ成功
- 10月、米国で実施された宇宙安全保障等に関する多国間机上演習「シュリーバー演習」に初参加



シュリーバー演習

民生分野における宇宙利用推進

- 11月1日、準天頂衛星システム「みちびき」による世界最高精度の測位サービス開始
- 宇宙ベンチャー創出と宇宙利用のすそ野拡大



準天頂システムサービス開始記念式典

- ▶ 宇宙ビジネスアイデアコンテスト「S-Booster2018」の開催
- ▶ 投資マッチングプラットフォーム「S-Matching」の本格始動
- ▶ 宇宙推進自治体（北海道、福井、茨城、山口）の選定と連携強化

産業・科学技術基盤の維持・強化

- 6月、小惑星探査機「はやぶさ2」がリュウグウ上空の到着
(小型ローバー・小型探査機の投下にも成功し、1月以降のタッチダウンに向けて準備中)
- 日本の技術で宇宙ステーションから実験試料の回収に初成功（小型カプセル）



はやぶさ探査機とリュウグウの様子



南鳥島付近の海上に着水

工程表改訂のポイント

1. 宇宙安全保障の強化

- 今般見直される新たな「防衛大綱」にも沿った、宇宙安全保障の一層の強化
- 宇宙状況把握（SSA）システムの2023年度の運用開始を見据えた具体的な取組の推進（防衛省のSSAを運用する部隊の新編、JAXAとの連携、米国・仏国との二国間協力等）
- 情報収集衛星の整備（2019年度光学7号機打上げとレーダ多様化1号機の開発着手等）

2. 宇宙産業の更なる拡大

《衛星データの利用拡大》

- これまで宇宙に関わりの少なかった分野も含め、自動走行、農業、防災等の様々な分野・新たな地域での準天頂衛星や政府衛星データの利活用促進（実証事業、官民TFによる利用推進、政府衛星データのオープン＆フリーのデータ・プラットフォームの年度内始動等）
- 準天頂衛星「みちびき」の機能・性能向上と7機体制の確立

《宇宙ベンチャー創出・育成》

- ベンチャー支援についてアジア等の海外展開も含めて活動強化（アジア版S-Booster、S-Matching）
- 来年度に、宇宙ビジネス専門人材プラットフォームの運用開始

《宇宙機器の国際競争力強化》

- 基幹ロケット（H3、イプソン）・技術試験衛星の開発、基幹部品軌道上実証、再使用型ロケット検討

3. 産業・科学技術基盤の整備

《国際宇宙探査等》

- 米国の月近傍の有人拠点構想「Gateway」への参画等に関する技術実証（F/S）や国際調整等を推進
- 宇宙科学・探査プロジェクトの着実な実施
(事前実証（フロントローディング）の実施、小型月着陸実証機（SLIM）、火星衛星サンプルリターン計画（MMX）、深宇宙探査技術実証機（DESTINY+）等の各プロジェクトの推進等）

《宇宙デブリ対策》

- 政府全体の取組を推進すべく枠組みを構築するとともに、2019年度前半までにデブリ低減対策の基本的な取組を整理